

**令和7年度里海づくりを通じた藻場干潟の保全と利活用  
基盤構築支援業務におけるモデル事業実施報告書**

**事業名：二色の浜海岸地域における持続可能な生態系の  
保全と里海ネットワーク構築事業**

**令和8年2月**

**貝塚里海づくり未来協議会**

# 目 次

1. 事業概要
  - (1) 事業名
  - (2) 事業目的
  - (3) 事業内容
  - (4) 発注機関
  - (5) 請負者（実施団体）
  - (6) 事業実施期間
2. 令和7年度モデル事業の取組み内容及び成果
3. 今後の課題、取組み方針
4. 総括（まとめ）

# 1 事業概要

## (1) 事業名

二色の浜海岸地域における持続的な生態系の保全と里海ネットワーク構築事業

## (2) 事業目的

大阪府貝塚市は、大都市圏にありながら、全国でも稀な森里川海が市域内ですべて俯瞰できる自然豊かな地域である。貝塚市では、地域の自然を生かした環境学習などにも取り組み、海と山をつなぐプロジェクトの展開もされている。

貝塚里海づくり未来協議会では、貝塚市内におけるアマモ保全・再生・利用や魚礁づくり活動など「貝塚モデル」（地域の特性を活用し、博官学民連携、調査データを基に大阪湾の魅力などを発信、持続可能な活動）により、令和の里海づくりを進めていくことを目的としている。

なお、地域資源である貝塚二色の浜に生育する「アマモ」を中心に下記の3つの事業を柱として取り組んでいる。

- 大阪湾北限のアマモ保全・再生・利用や魚礁づくりと、地域や民間企業による協賛、支援体制を整えていく
- 地域にある豊かな自然を生かした海洋教育を通して、市民の誇りとなる貝塚里海を次世代へ継承していく
- 貝塚里海ツアーをはじめ、海と山連携つなぐ取り組みをすすめ持続可能な基盤を構築していく。

## (3) 事業内容

実施した事業は下記のとおり

(貝塚里海づくり未来協議会企画事業)

- 1) 市民など参加によるアマモ場の生きもの観察
- 2) 次代を担う大学生や子供たちによる魚礁づくり
- 3) 大阪・関西万博などのイベントやシンポジウムでの里海づくり広報
- 4) 自然共生サイト登録への準備
- 5) その他；調査事業（市立自然遊学館事業）

## (4) 発注機関

公益財団法人国際エメックスセンター

## (5) 請負者（実施団体）

貝塚里海づくり未来協議会

## (6) 事業実施期間

令和7年7月1日から令和8年2月27日まで

## 2 事業の取組内容及び成果

### 1) 市民など参加によるアマモ場の生きもの観察ほか

#### ①目的

貝塚市民や子供たちが、二色の浜および隣接エリアの調査、観察活動に参加することにより二色の浜の今の生態系の状況や魅力を学ぶ機会とすることとともに、過去から現在に至る環境改善状況の経緯などを学ぶ機会を提供することを目的とする。

#### ②実施状況

##### ○大阪湾生き物一斉調査～近木川河口～

日 時：2025年5月25日（日）10時～14時

参加人数：48名

概 要：木川河口干潟での観察会では、貝やカニ、ヤドカリなどの海岸生物を採集。アマモ場での地引網では、メバル類やアナハゼ、クサフグなどの魚を確認。採集した生物は、参加者に説明した。



##### ○アマモの保全

日 時：2025年5月25日（日）10時～14時

概 要：昨年から今年にかけて大阪湾でのアマモ場が減少した。協議会では、アマモを保全するため、二色の浜で採取したアマモの花枝を二色の浜人工島の海に沈め花枝を成熟させた。そのアマモの花枝から種子を取り参加した市民とふるいにかけて種子選別作業を実施した。種子は子どもたちが育てて苗にして、令和8年春にはアマモポット苗を二色の浜に植える。



イベント風景



花枝を成熟させた二色人工島



アマモ花枝回収風景



採取したアマモの種

○アマモ場の利用（生きもの観察会）

日 時：2025年7月6日（日）10時～14時

概 要：アマモ場での観察会では、アミメハギやチヌ、コショウダイなどの幼魚が採集した。多様な生き物たちがアマモ場を住処にしていることが実感でき、里海づくりの機運醸成の機会となった。



○不登校児童、海釣り体験

日 時：2026年10月15日（水）

11月13日（木）

概 要：貝塚市が取り組んでいる不登校児童対策として、海釣り体験が実施された。里海での体験活動を通じて、社会的自立に向けたきっかけづくりになった。



海釣り体験風景

○アマモ苗育成

日 時：2026年12月5日（金）

概 要：貝塚市立二色学園にて、CIFER・コアメンバーが講師となり、二色の浜アマモの苗づくりのため、育苗セットを用いたアマモ苗の育成レクチャーを実施した。



レクチャーの様子  
アマモ育苗セットの作成



種(花枝)の採取(6月)



種の養生(自然遊学館に展示)

## 2) 子供たちなどによる魚礁づくり

### ①目的

里海と山（および里山）は、海だけ、あるいは山だけが、単独で成立しているのではなく、森川里海という連鎖の中で密接につながっている。貝塚市は森川里海が市内ですべて俯瞰できる。その自然循環、森川里海のつながりについて、子供たちが体験活動を通じて、五感で自ら感じて理解することを目的とする。

### ②実施状況

#### ○魚礁の材料となる杉の伐採

日 時：2025年7月20日（日）10時～16時

概 要：森林の管理手法である間伐作業について林業の専門家から学ぶとともに、自ら間伐作業を行って、木を育てるのに要する時間やその努力を知るとともに、魚礁の基礎となる杉を搬出した。



### ○森林の肥料となるアナアオサの収集

日 時：2025年8月23日（土）10時～14時

概 要：色の浜にあるアナアオサとは何か。二色の浜ではアナアオサの何に困っているのか、活動を通じて理解した。（アナアオサが問題ではなくて、夏場に大量発生することである。）アナアオサを有効活用するため、アナアオサを収集、水洗いして乾燥させて、山で苗木の肥料とする取り組みを実施した。



### ○魚礁の製作と設置

日 時：2025年11月1日（土）10時～16時

概 要：大阪 ECO 動物海洋専門学校と作成した魚礁の設置準備を行いダイバーにより二色の浜に魚礁を設置した。





### ○二色の浜のアマモ生育環境の確認

日 時：2026年2月4日（水）10時～16時

概 要：潜水調査により、アマモが生育する海底の様子を観察して記録した。  
そのデータは協議会メンバーで2月20日（金）開催の協議会において  
情報共有した。



### 3) 大阪・関西万博などイベントやシンポジウムでの里海づくり広報

#### ① 目的

② 大阪・関西万博における環境省主催の「全国里海づくりシンポジウム」、大阪みどりのトラスト協会等主催の「大切にしたい地域の自然・里山・里海シンポジウム」をはじめとしたイベントで、パネルを出展して、貝塚の里海づくり活動を広くアピールするとともに各種団体と情報交換を行う。

### ③ 実施状況

○EXP02025 大阪・関西万博 ギャラリーWEST パビリオン展示

日 時：2025年9月18日～23日

概 要：パネルや水槽を展示するとともに、貝塚市長が環境省の撮影チームの取材を受けて、動画が環境省のHPで発信された。



上：展示風家

下：市長による展示物の説明

○EXP02025 大阪・関西万博 ブルーオーシャンドーム、ギャラリーWEST パビリオン

日 時：2025年9月23日

概 要：ブルーオーシャンドームパビリオンにおいて、貝塚市葛城緑の少年団が大阪府知事の前で里海活動を発表するとともに、ギャラリーWESTパビリオンで展示されているパネルや水槽を見学した。



※知事と貝塚市葛城緑の少年団トークセッション

○森林（もり）のギャラリー展示

日 時：2025年11月4日（火）～11月28日（金）

概 要：環境省近畿地方環境事務所がある合同庁舎（大阪市北区）の1F 森林（もり）のギャラリーにおいて、里海活動などのパネル展示を実施して、来庁者に貝塚市での活動内容を見ていただくことができた。



○全国里海づくりシンポジウム

日 時：2026年1月30日

概 要：大阪市御堂筋ホールで開催された環境省主催の全国里海づくりシンポジウムにおいて、貝塚市長が事例発表するとともに、トークセッションに協議会も参加して情報発信を行った。



貝塚市長による事例発表



トークセッション

○大切にしたい地域の自然・里山・里海シンポジウム

日 時：2026年1月31日（土）13時から17時

概 要：岸和田市立中央公民館で開催された大阪みどりのトラスト協会などが主催のシンポジウムで事例発表するとともに、トークセッションでは貝塚葛城緑の少年団をはじめ各種団体と情報交換を行った。また岸和田市や貝塚市の庁舎でパネル展示を行い、貝塚の里海づくりについて情報発信した。



○フィッシングショー-OSAKA2026

日 時：2026年2月6日（土）～7日（日）

概 要：インテックス大阪（大阪市住之江区）で開催されたフィッシングショー-OSAKA2026 にブース出展を行い、リーフレットなどで里海活動を幅広く来場者へ紹介した。また会場では、出展企業の方々へ里海づくりへの支援協力についてヒアリングした。



#### ○HP、SNS 開設と広報

ドメインを取得して、サーバーをレンタル、ホームページを立ち上げるとともに X、Facebook、Instagram で発信した。

また協議会のリーフレットを作成して各種シンポジウムで配布して、里海づくり活動をアピールした。



#### 4) 自然共生サイト登録について

##### ○自然共生サイト登録への準備

日 時：2026年2月19日（木）10時30分から17時

概 要：環境省近畿地方環境事務所の専門官から貝塚の現地において、全国初となる「海と山の両エリア」を同時に自然共生サイトへ登録していくことについて助言指導を受けた。



#### 5) その他

貝塚市立自然遊学館の事業

河口域やアマモ場における定性的なモニタリング調査など

## (別紙のとおり)

### (4) 結果

貝塚市民や子供たちが、二色の浜および隣接エリアの調査、観察活動に参加することにより二色の浜における現在の生態系の状況や魅力を学ぶ機会や過去から現在に至る環境改善状況の経緯などを学ぶ機会を提供することができた。

里海と山（および里山）は、海だけ、あるいは山だけが、単独で成立しているのではなく、森川里海という連鎖の中で密接につながっている。その自然循環、森川里海のつながりについて、体験活動を通じ、五感で感じて理解することができた。

大阪・関西万博における環境省主催の全国里海づくりシンポジウム、大阪みどりのトラスト協会等主催「大切にしたい地域の自然・里山・里海シンポジウム」をはじめとしたイベントにおいてパネルを出展して、貝塚の里海づくり活動を広くアピールすることができた。

### 3 今後の課題、次年度以降の取組方針

(課題)

- X、Facebook、Instagram のフォロワー数が少なく情報発信が弱い。
- KGI 達成に向けて、各取組について具体的に整理のうえ、活動目的などを分かりやすく発信できるようにする必要がある。
- アマモ場再生にあたっては、「アマモ場がなぜ残存しているのか、なぜ消失したのか、再生に適した物理的・科学的な生育環境条件は何か」ということなどを把握し、調査していく必要がある。
- 今後、地域特性を踏まえて、どのような団体と連携、協力していくのか、推進体制づくりにも取り組んでいく必要がある

(今後の方向)

- X Facebook、Instagram の投稿回数を増やすとともに、人々の目に留まるような動画を作成するなど、発信量を増やしていく。
- 二色の浜湾全体をドローンによりアマモの生育状況を面的に調査するとともに、基礎データに基づき、アマモの生育環境に適した保全再生、利用に取り組んでいく。
- 教育機関などとも連携のうえで、次代を担う学生や子供たちへ里海里山の活動の重要性を理解する仕組みづくりを進めていく。
- 企業などから幅広く貝塚里海づくりへの支援が得られるように、目標を明確にした分かりやすい資料の作成に取り組んでいく。

### 4 総括(まとめ)

令和の里海づくりでは、地域社会の多様な主体が連携協力していくことが重要で、丁寧な合意形成、貝塚里海づくり未来協議会が果たす役割は大きいと考えている。今回のアマモ場の保全・再生や魚礁づくりは、何のために行うのか、地域や民間企業による協賛・支援体制をどのように整えていくのか、地域の実情に応じて、具体化していく必要がある。

また、二色の浜はブルーフラッグビーチの認定を受けるために毎年水質等数値データを取っていることから、ブルーフラッグビーチとの連携強化にも取り組み、持続可能な活動となるように体制づくりを進めていきたい。

なお、全国大会などを通じて、他地域の実情を把握することができた。その結果、大都市圏に位置して漁業権がないという貝塚里海の独自性を認識することができた。

今後は、その地域特性や強みを活かした里海観光ツアーなど新たな事業展開についても検討して地域自然共生社会を目指していきたい。